

電 設 新 聞

発行所
社福島県電設業協会
発行人 大槻賢彌
〒960-8114
福島市松浪町9-6
(福島県電設業協会館)
TEL (024) 533-6235
FAX (024) 533-6235
編集印刷 南福島タイムズ社
福島市御山字井戸上64-5

現状打破へ四目標

知恵を出し守りから攻めに

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、本年が良い年である事を、祈念申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、景気は上向いていり、中央「大手企業によ



(社)福島県電設業協会
会 長
大槻 賢彌

る「人勝ち」としか思えません。地方の業者にとっては厳しい一年であったと思えます。追い討ちを掛けるように、年末に起きた耐震データ偽装問題は、建設業全体の信用を失墜させました。ISO「品質」等を取

し、顧客の信用と信頼を得て来た我々には残念な事態です。一日も早い原因究明と対策を望みます。

CM採用地方版PFI

このような現状を打破するために、新年度の目標を四つ挙げます。

1 研修事業の効率化

IT活用の技術革新の波が、急速に我々の施工分野へも入って来ています。対応方法として、今までのような画一的なものではなく、臨機応変に随時、必要な分野の研修会や講習会等を行う事が重要と考えます。研究・検討して実行します。

2 技術提案型企業への脱却を目指して

「CMを採用した地方版PFI事業」を提言します。

謹賀新年

本年も相変わらぬご指導ご支援をお願いいたします

社団法人 福島県電設業協会

公共工事減少続く

(社)福島県電設業協会は昭和三十三年創設以来、「技術力の向上」を第一に各種講習会・研修会等を毎年継続して参りました。この姿勢と実績が発注者に認められ、分離発注が国・県・地方自治体では主流となり、現在に至っております。建設業界全体の完工高の推移を見ますと、平成十年をピークに減少し、平成十六年度は三五%にまで落ち込んでおります。

CM採用地方版PFI

現状のPFI事業での一番の問題は、事業者決定のプロセスにおいて非価格要素より価格要素がはるかに大きな比重となっており、一部の大手デ

3 「地域との共生」とは

地域で生活している私達が、自分の持っている力を活用して防災活動に積極的にボランティアで参加する事です。

4 「設備三団体の連携の強化」とは

「衛生」「設備」の一に組み込まれており、必要不可欠の事だと確信しております。

地方の専門工事業者

実現の可能性を調査

自治体にもメリット

そこで、地方の建設業に携わる専門工事業者

ボランティアで積極的防災活動

の五支部が協力して救助復旧活動を行う事です。そのために、各地方自治体と出来るだけ早く防災協定を結ぶ必要があります。

最大のポイントは、

①CMの採用
②ファイナンスはSPCに参加する企業の担保能力ではなく、事業の確実性の二点であり、これらを担保するためには次の機構が必要条件となります。その一つが「NPO法人福島CM」と「PFIジャパ」の連合体であり、もう一つが「日本PFI協会」です。これらが連携する事により、「CMを採用した地方版PFI事業」が成立します。そのため、地方自治体と勉強会を行い、可能性の調査をして、実現可能な事業があれば平成十八年度中にも一つでも二つでも実績を挙げたいものです。

平成17年の主なうごき

1月
▽6日 新年挨拶まわ
り、第四回総務委員会

2月
▽7日 経営部会打
合
▽17日 要望(いわき
駅前地区市街地再開発事
業の電気工事・空調衛生
工事関わる分離発注によ
る地元業者の活用につ
いて)▽22日 第六回広
報委員会▽24日 第五回技
術委員会

3月
▽4日 平成十六年度
経営部会、第六回総務委
員会

4月
▽9日 11日 平成十
七年度会員研修旅行「愛
知万博と悠久の歴史絵
巻」▽14日 第一回総務
委員会▽22日 第一回監
事会(平成十六年度決算
監査、第一回理事会)

5月
▽26日 第五十五回通
常総会▽27日 要望(国
立大学法人福島大学の施
設整備に地元業者の活用
について)

6月
▽3日 第一回正副
会長・支部長会、第三回
理事会▽8日 第三十六
回協会ゴルフ大会▽20
日 第二回技術委員会、第
二十回工事施工体験発表
会▽21日 第二回広報委
員会

7月
▽4日 第三回総務委
員会▽6日 設備三団体
活性化委員会▽11日 要
望(公共施設工事に伴う

8月
▽1日 第三回技術委
員会、平成十七年度技術
講習会、平成十七年度安
全大会▽3日 PFI事
業推進講習会▽4日 設
備三団体活性化委員会小
委員会、CM事業推進講
習会、第四回総務委員
会、▽11日 第二回正副
会長会議

9月
▽20日 第四回技術委
員会

10月
▽3日 第五回総務委
員会▽20日 第四回理事
会

11月
▽7日 設備三団体活
性化委員会、県営繕担当
職員との技術研修会第一
回事前打合せ▽17日 県
営繕担当職員との技術研
修会第二回事前打合せ▽

12月
▽5日 第一回経営部
会、設備三団体懇談会▽
7日 平成十七年度現場
研修会、第五回技術委員
会▽15日 県営繕担当職
員との技術研修会第四回
事前打合せ▽22日 県営
繕担当職員との技術研修
会▽26日 年末挨拶まわ

り



元日の四倉海岸(いわき市)

このような現状を打破するために、新年度の目標を四つ挙げます。

1 研修事業の効率化
IT活用の技術革新の波が、急速に我々の施工分野へも入って来ています。対応方法として、今までのような画一的なものではなく、臨機応変に随時、必要な分野の研修会や講習会等を行う事が重要と考えます。研究・検討して実行します。

2 技術提案型企業への脱却を目指して
「CMを採用した地方版PFI事業」を提言します。

現状のPFI事業での一番の問題は、事業者決定のプロセスにおいて非価格要素より価格要素がはるかに大きな比重となっており、一部の大手デ

ボランティアで積極的防災活動
地域で生活している私達が、自分の持っている力を活用して防災活動に積極的にボランティアで参加する事です。

最大のポイントは、
①CMの採用
②ファイナンスはSPCに参加する企業の担保能力ではなく、事業の確実性の二点であり、これらを担保するためには次の機構が必要条件となります。その一つが「NPO法人福島CM」と「PFIジャパ」の連合体であり、もう一つが「日本PFI協会」です。これらが連携する事により、「CMを採用した地方版PFI事業」が成立します。そのため、地方自治体と勉強会を行い、可能性の調査をして、実現可能な事業があれば平成十八年度中にも一つでも二つでも実績を挙げたいものです。

そこで、地方の建設業に携わる専門工事業者

実現の可能性を調査
自治体にもメリット

平成17年の主なうごき

平養護学校施設を視察

設計者と施工者らが説明

当協会は、十二月七日にいわき市の県立平養護学校で平成十七年度現場研修会を開催した。

午後一時に同市の報徳苑に集合した約八十名の参加者は、研修の対象となる県立平養護学校全面改築（校舎二期電気）工事の概要説明を受けた。

説明会では、はじめに坂本幹夫副会長があいさつに立ち、「平養護学校は、現在の技術の粋を集めている施設であり、現場を自分の目で確かめ今後の仕事に役立てていただきたい」とあいさつした。続いて建築設計と監理を担当しているTR建築アトリエの五十嵐徹氏が

が建築設計の基本方針を説明し、平成十四年度に行われたプロポーザル設計競技の経過について述べるとともに、車椅子やストレッチャーを使うためのスロープの配置など障害を持つ子ども達にも自由なく学んでもらうために配慮していること、さらに地域交流に対する考え方を説明した。

設備設計を担当しているいわき設備設計事務所の木下庄市氏は、人感センサーと連動する教室照明や省エネ、新エネに対する取り組みを語った。

また、同工事を担当している大和電設工業の会田博隆主任が、施工の概

要や進捗状況、現場見学における留意事項などを説明した。

参加者は、バスで同市平上平窪の平養護学校に向かい、朝礼広場で建築JVの担当者から、現場での安全活動や工事用車両の運行などの地域住民対策について説明を受けた後、三班に分かれて現場内に入り電気設備を中心に施工状況を研修した。

平養護学校は、「地域における養護教育の要」となることが期待されており、良好・良質な学舎であることとあわせて、地域における障害者の学習・相談の場として積極的に開放されることが求められている。学校を構

成する施設は普通教室・特別教室、食堂・厨房、管理所室、屋内体育館、グラウンド、寄宿舎等で、第一期工事では、管理棟、中学年棟、寄宿舎棟などが三月十七日の完成に向けて整備が進められている。

建物には、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地上三階建てで、のべ八、八二八・七二㎡。電気工事の種類は次の通り。

- ▽電灯設備▽動力設備
- ▽受変電設備▽自家発電設備
- ▽外灯設備▽構内配電設備
- ▽構内情報通信設備
- ▽電話配管設備
- ▽構内交換設備
- ▽拡声設備
- ▽テレビ共同受信設備
- ▽電気時計設備
- ▽インターネット設備
- ▽防火設備
- ▽防犯配管設備
- ▽監視カメラ設備
- ▽自動火災報知設備
- ▽非常通



建築JVの担当者から説明を聞く参加者

平成17年度現場研修会

新しい年の初めに当たり、県民の皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、二十世紀型社会システムの限界の表れとも思えるアスペクトや耐震強度偽装の問題など、住民の安全、安心を揺るがすような問題が相次いだ一年でしたが、私は、二十一世紀を見通す大きな理念として「共生の論理」を提唱してきました。

年頭あいさつ
新しい時代に向かって
福島県知事
佐藤 栄佐久



これは、経済の論理、競争の論理を過度に追求する二十世紀型社会システムの反省に立ち、人と自然との共生、人と人との共生、地域間の共生、世代間の共生、価値観の共生の「五つの共生」を進め、経済性や効率性というところを形成して、本県では、こうした考えの下、全国に先駆けた特色ある取り組みを進めてまいります。

いわゆる「三位一体の改革」では、義務教育費国庫負担金の問題が大きな議論を巻き起こしましたが、地方の明確な責任と判断の下に教育改革を行うとの考えから、昨年は全国初となる小・中学校全学年における三十人学級を導入しました。今年度は、スポーツのみならず人間性や学力も含め、国際人として社会をリードする人材を育成する新しい教育の試

みとして、日本サッカー協会などとの連携の下に富岡高校を中心とした中高一貫教育をスタートさせます。

また、各地で大型小売店舗の郊外出店や中心市街地の空洞化が問題となる中、高齢者や障がい者などの生活、地域固有の伝統・文化に重大な影響が出ることを危惧から、全国に先駆けて、大型小売商業施設の適正な配置などを目指し、昨年制定した「商業まちづくり推進条例」を今年十月に施行します。さらに農山村の活力低下が危惧される中、東日本で初めて導入を決定した森

林環境税を活用し、森林環境の保全とともに過疎・中山間地域の振興・活性化を図ってまいります。

昨年の秋には、欧州三カ国を訪問しましたが、小規模なコミュニティ（フランスの市町村）による「身近な民主主義」の現場や、「文化は全てのものの底流にあり、これを牽引するエンジンである」といった考え方に基づく独自の地域づくりに触れるなど、多くの示唆を得てまいりました。これらの成果を、教育改革二年目の具体的取り組み、一人一人の住民が主役とな

る真の分権型社会に向けた処方箋となる「分権宣言進化プログラム」の策定・具現化、文化を起点とした個性あふれる地域づくり、「人」中心の新しいまちづくりなどに生かしてまいります。

今年度は、二〇〇五年をピークとして人口が減少するいわゆる「人口減少社会」が本格化します。このような中、私は、地域や地域

住民から出発して、一人一人の住民が主役となる真の分権型社会、東京一極集中に象徴される強者の論理と一人勝ち社会の反省に立ち、「共生の論理」に導かれた社会、自ら考え行動する自立心と新しい時代を切り開き挑戦する心を大切にした、一人一人の個性や能力が自由に発揮できる社会、そして「いのち・

人権・人格の尊重」に結びつく安全で安心な社会を目指してまいります。

私は、県民の皆様とともに、二十一世紀にふさわしい地域社会の実現に向けて着実に歩みを進めてまいります。今後とも県政に対する一層の御支援とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。



TOSHIBA
明るく、スリムで、長寿命。

天竺輪シリーズ
東芝薄型照明器具
ネオスリムV
東芝ライテック株式会社
郡山営業所 TEL(024)922-5511

National

実照広告

人の目には自然な明るさのまま、虫が集まりやすい光の波長だけをカット。

虫を寄せにくい光の「ムシベール」

光に誘われて虫だらけの「一般照明器具」

※実際に、照明を点灯して実験しました。

低誘虫照明システム **ムシベール** シリーズ

低誘虫照明器具 **ムシベール**

光誘引捕虫器 **ムシパットル**

虫を寄せにくくする。来た虫は捕獲する。

○商品に関するお問い合わせは、〒963-8024 郡山市朝日2丁目5番15号 松下電工(株)福島営業所 TEL.024-939-7731 まで。
National 松下電工、NAIS 松下電工は National ブランドに統一します。 松下電工

支部長の年頭所感

親睦と結束を強化

福島支部長 大室 功



平素は、福島支部の運営にご理解とご協力を頂いておりまして、誠に厚く御礼申し上げます。

大都市など一部地域では、建設需要が回復してきたとの報道がありまして、地方においては、民間設備投資は依然停滞したままであり、加えて公共事業の削減が続いており、地方の中小建設業、専門工事業を取り巻く環境は依然として厳しく、予断を許さない状況にあります。

本協会並びに、支部の技術講習会、研修会等に積極的に参加し、最新の技術を習得して技術力の向上と研鑽に努め、発注者より信頼される施工能力を身に付け、工事の受注に結びつくよう、各社企業努力をして経営の安定に努め、会員相互の親睦と結束を一層強化して、平成十八年も支部一丸となって地場産業としての役割を果たすべく諸

今年も
よろしくお祈りします



力を身に付け、工事の受注に結びつくよう、各社企業努力をして経営の安定に努め、会員相互の親睦と結束を一層強化して、平成十八年も支部一丸となって地場産業としての役割を果たすべく諸

「去来するもの」

白河支部長 石川 巨



「二の字二の字の下駄の跡」
こんな情景を憶（おも）い出す季節となり、振り返ってみると、この様な歌心にひたれる時があったでしょう。現状は、決してそうではありません。一連の多発する事件、或いは度重なる不祥事、枚挙に遑（たわ）がありません。大都市と地方の増大する格差など、私達に重くのしかか

つてきて居ります。業界の地位の向上が叫ばれてから久しく、これまでの積み重ねが根底から崩される誤ったコストの削減、一向にとどまる気配もありません。もう一度原点に立ち返り力を合わせて修復していかねばなりません。社会もそうですが、まず身近な所から意志の疎通を図り、良くしていくこと。業界に於いては、共に技術の

向上に向け絶えず研鑽に励み切磋琢磨するなど、共に協働していく必要があります。

初心に返り行動

いわき支部長 坂本 幹夫



広辞苑によれば、協会とは「ある目的のため会員が協力して設立・維持する会」とある。

正に今、改革の時流の中、戦後六十年積み上げてきた社会構造のゆきづまり、閉塞感が現在の不況を生じさせていると思

「夢を持てる業界」へ向け、日々の協会活動を通して鋭意努力してまいりますので、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

今、協会が取り組むべき課題は、まさに協会設立当時の初心に立ち返り、行動すべき時が到来しているのではないのだろうか。

いわき支部としては、協会本部の方針に外れることなく、それには従いながら支部会員全員が協力して、次年度計画を策定していくつもりである。

策定期間は三月頃になるが、基本的には会員会社の技術力の向上、新分野への取り組み、社会貢献への取り組み、安全管理への取り組み、そして親睦行事の開催等になるが、理事会でよく検討し

「期待する一言」

相双支部長 八巻 正隆



相双支部管内では、電気の需要を認識して日本本土の太平洋沿岸、大電源地帯を抱え、役割を担うべく安全な供給とバランスを考え、需要家の信頼を築き大きく飛躍をして参りました電力業界、しかしここに来て昨今の一連の事故等への責任、深く重く圧力がかかりやむを得ず休止されて

であることは、言うまでもないことである。最後に今年一年間、会員が何事もなく全てに無事で過ごせることを願っている次第である。

職場、雇用の場に戻される事を期待する。又、近隣市町村では、木戸ダム関連の工事及び原子力センターにおける環境放射線観測局等、取替作業、発電機の設置工事を含む計画が、少しずつ明らみが見えてき

本年も良い年で有りませうと期待申し上げます。

一層のPR活動を

会津支部長 渡部 光一郎



低温と大雪に見舞われた会津地方は、雪片付けに追われながらも穏やかな新年を迎えることができました。

会津は、まだまだ一括発注のある地域ですが、PRパンフレットを持ち

が、まだまだ会津の地には温かい風が吹いては来ていない様です。

会津支部としては、市町村合併時期の今こそ、分離発注していただく余地があり、機会が増えるものと確信して、今年一年運動して行きたいと考えております。

夢の持てる業界へ

郡山支部長 壁谷 忠夫



昨年度後半より景気が持ち直しているという報道が相次いでおります。建設業界においても一部の地域ではバブル以来の人手不足になっている所も有る様です。

郡山支部としては、昨年度大規模な提案されたCMを用いた地方版PFI事業に活路を見いだすべく、鋭意努力していき

とも一部工場等の進出は有りませんが、大手サブコンとの競争が激しく、原価割れで受注している工事が数多く見られます。

又、当支部も昨年は二社の新規入会があり、世代交代も進んでおりますので、会員間のコミュニケーションに気を配りながら、新会員及び若い経

営者が、これからの電気工事業に夢を持てる様に努力していきたいと思

「夢を持てる業界」へ向け、日々の協会活動を通して鋭意努力してまいりますので、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

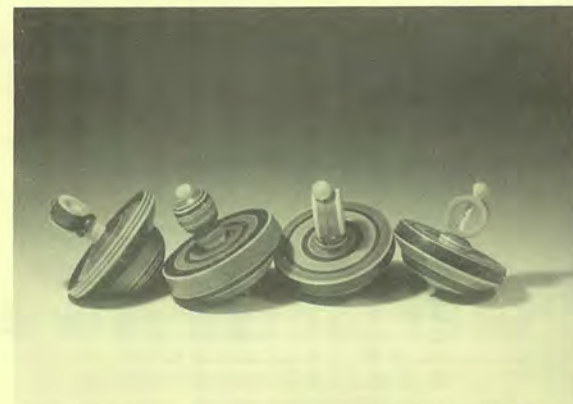
今、協会が取り組むべき課題は、まさに協会設立当時の初心に立ち返り、行動すべき時が到来しているのではないのだろうか。

いわき支部としては、協会本部の方針に外れることなく、それには従いながら支部会員全員が協力して、次年度計画を策定していくつもりである。

策定期間は三月頃になるが、基本的には会員会社の技術力の向上、新分野への取り組み、社会貢献への取り組み、安全管理への取り組み、そして親睦行事の開催等になるが、理事会でよく検討し

会津支部としては、市町村合併時期の今こそ、分離発注していただく余地があり、機会が増えるものと確信して、今年一年運動して行きたいと考えております。

迎春



反面ますます加速している少子高齢化が見込まれる中、厚生労働省の指導による高齢者雇用安全法が改正され、今年四月一日から定年の引き上げ、継続雇用制度の導入、定年制度の廃止により、年金受給開始まで、安定して働くことができると期待されています。

CM活用

地方版PFIを推進

設備三団体が懇談会開く

当協会（大槻賢彌会長）・県設備設計事務所協会（木下庄市会長）・（社）県空調衛生工事業協会（有賀敬四郎会長）の設備三団体は、十二月五日に福島市で懇談会を開催し、設備の独自性を啓蒙しながらCMを活用した地方版PFIを推進していくことなどを申し合わせた。当協会からは、正副会長、支部長、技術・広報の両委員長と専務理事が出席した。

三団体からあわせて三十五人が出席した懇談会では、幹事を務めた当協会の大槻会長が、「県発注の公共工事は全体としてピーク時の三五%まで減少し、電気関係は七〇%程度となっている。今後事業量の減少が予想されることから、知恵を出し合って仕事づくりを進めることが必要だ」と述べた。また、木下会長は「協会の事業は電算ソフトの売上などで何とか順調に推移している。昨今の構造計算書偽装の問題から、設計においても意匠、構造、設備の責任を明確にする流れが出てきた。瑕疵担保の問題など大槻会長は、事業創出

このあと、三団体の活性化委員会を中心に取り組んでいる分離発注の促進を内容とするPRパンフレットの配布状況等が報告された。この中では、市町村によって設備に関する意識差があるため、継続してPR活動を行い地位の向上を図ることを確認した。

一方、三団体共通のテーマを扱う講習会等の開催については、テーマに



福島市で開かれた設備3団体懇談会

対する理解度を揃える意味から、今後、合弁で開催することを申し合わせた。県有施設の定期検査に對する協力については、一千八百棟の二分の一から三分の程度が該当する見込まれるが、設備に関しては目視だけでは不十分な面もあることから、性能試験の実施も含めて実質的な検討を行い、関係機関とも相談していくこととした。

このほか、市町村合弁に關連して、発注体制の見直しも行われることから、この機会を捉えて設備の分離発注を要望すること、さらに、合弁後の早い時期に防災協定についても前向きに検討するよう求めていくことを確認した。

団体間の結束強化を再確認

懇談の中では、「三団体として行う事業について決議を行い、結束を明らかにしてはどうか」という意見も出されたことから、CMを活用したPFI事業等に関しては、今後、研究・研さんしていくこととされた。

年頭所感 七つの生活圏を整備

福島県土木部長 蛭田公雄



新しい年を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年を振り返りますと、六月の梅雨前線豪雨、八九月の大雨や台風一、二号などにより、県内にも多くの被害をもたらしました。

一方、国においては、厳しい財政状況に加え、三位一体の改革の具体的検討が進められ、県においても財政構造改革プログラムに

基礎的、投資的経費の規模の抑制が図られるなど公共事業を取り巻く環境は引き続き大変厳しい状況にあります。

このような中、昨年は、あぶくま高原道路福島空港IC〜平田IC間の工事着手、国道一一五号土湯バイパスの全線供用開始、十六橋水門の改修工事の完成、小名浜港藤原ふ頭

地区くん蒸上屋の整備など、本県の社会資本整備が着実に進められた年でもありました。

本県は広い国土と厳しい地形・地質条件に加え、気象条件も多様な地域を有しており、歴史や文化など特色あふれる七つの生活圏が形成されており、これらの連携強化や、近年、局地的な豪雨や地震が頻発していることから、水害、土砂災害、地震等の自然災害から県民の皆様の生命、財産を守るため、万一の場合にも被害をできるだけ減らす為の対策など、

時代の要請は、ますます増大しているものと認識しております。

このため、今後の社会資本の整備にあたりましては、これまで以上に事業の重点しゅん別を進めるとともに、更なるコスト削減に努めながら、県内七つの生活圏を有機的に連携する交流ネットワークづくりや、持続的発展が可能となる生活環境の確保のための基盤整備、ソフト・ハードと一体となった個性と魅力あるまちづくりを着実に進めてまいります。

今後とも大変厳しい財政状況ではありますが、引き続き地域の皆様やNPOなどの民間団体、関係機関の方々の連携を深めながら、真に地域に必要なものを地域の皆様と

「ともに考え、ともにつくる」、さらには「ともに育む」ことを基本として、本県の社会資本の整備を着実に進めてまいりたいと思っております。

本年も県民の皆様のご期待に応えるよう全力を尽くしてまいりますので、なお一層の御支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。



人と環境を明日につなぐ、
ニノテックのシステムエンジニアリング

情報・通信・制御・計装

株式会社ニノテック

代表取締役社長 樽川次男

本社/〒963-8577 郡山市島二丁目44-2
TEL(024)935-1700 FAX(024)935-1706

拠点/仙台支店・いわき営業所・福島営業所・棚倉出張所

換気扇・照明器・空調機・太陽光発電

三菱電機住環境システムズ株式会社

福島電材支店
福島冷住支店

TEL(024)959-6060
FAX(024)959-6066

ディーゼル発電機 ガスタービン
コージェネレーションシステム

ヤンマーエネルギーシステム株式会社

いわき営業所

〒971-8124 福島県いわき市小名浜住吉字飯塚四四、一

TEL(024)581-5811
FAX(024)581-5818

地域産業の振興と明るく豊かな社会づくりを目指しています。

OKADA

電気設備機器と住宅設備機器のコーディネーター

岡田電気産業株式会社

【本社】
〒970-8625 福島県いわき市平谷川瀬字明治町27
TEL(0246)25-6111 FAX25-6101

営業所

河川	TEL(0248)27-3385(代)
白須	TEL(0248)72-7136(代)
賀山	TEL(024)952-5455(代)
郡山	TEL(024)923-3298(代)
郡山	TEL(024)939-3081(代)
郡山	TEL(0242)37-2660(代)
津北	TEL(024)939-3081(代)
会津	TEL(0242)37-2660(代)
原町	TEL(0244)22-5105(代)
相馬	TEL(0244)35-1234(代)
福島	TEL(024)546-3700(代)
福島	TEL(024)553-1181(代)
いわき	TEL(0246)28-6111(代)
南来	TEL(0246)62-3122(代)

茨城県内・千葉県内・埼玉県内・栃木県内・新潟県内29カ所
住設建材営業所 6カ所



開成山で光のイベント 郡山電設業者協議会が協力

郡山の《冬の風物詩》として、開成山公園に県内最大級となった光のイベント「ビッグツリーペーシエント・フェスタIN KORIYAMA」が、昨年十二月二十三日から（一部は十四日から）今年の元旦・一月一日の午前二時まで開催されました。

郡山商工会議所、郡山市、郡山電設業者協議会、市内の観光団体などで実行委員会を組織し、市民総参加型の冬のイベントとして注目されました。

作業準備にあたり、電設業者は郡山の当協会会員の全てが加入している郡山電設業者協議会が担当いたしました。丸山副会長が会長を務め、渡辺前支部長が幹事長を務める郡山市の電設設備業者の団体です。

日頃からお世話になっている郡山市に対し、「何か恩返しをしたい、我々全員で手伝おう」と二人の強力なリーダーシップの下、十一月初めより役員会を何度も開き、各社の役割分担等を決め、十二月一日より作業に入りました。

当日は、雪が舞う非常に寒い日ではありましたが、電工の方々には夜遅くまで作業に従事していただきました。作業は十二月二十三日まで続き、労務のトータルは三百人、高所作業車等の車両にいたっては、延べ六十台に達しました。また、各社代表者の方々にも多くの作業に従事していただき、我々で出来る範囲で、最大限お手伝いをさせていただきます。

県土木部建築領域

平成18年の事業展望

新しい年を迎え、皆様御多幸と御清栄を心から喜び申し上げます。また、本県の建築行政の推進につきまして、日ごろより格段の御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年は、八月十六日に宮城県沖で地震が発生し、県内でも震度五強を記録した東北・相双地域を中心に屋根瓦等の落下やエレベーターの停止などの被害が発生したほか、アスベストを使用した建築物に関する健康被害や住宅リフォームに関するトラブル、マンション等の耐震強度偽装等、建築物に関する大きな問題が多発した年でありました。

平成十八年は、社会情勢の変化や県民の多様なニーズに対応しながら、県民の皆様が安全で安心できる住宅・建築物に向

けて更なる努力をしております。まず、住宅行政につきましては、地方分権の推進や少子高齢社会の到来など、社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成十六年度より施策の見直しに着手し、平成十六年七月九日に外部有識者による「住宅政策検討会議」を設置するなど、学識者や民間住宅団体関係者等から意見をいただきながら検討を進めてまいりました。検討会議からは、昨年十一月十七日に「福島県の住宅政策に関する提言」をいただいたところであり、この提言を踏まえ、今年度内を目途に、平成十八年度からの新しい住宅マスタープランの作成を進めているところであります。

提言では、住宅政策は公営住宅の整備のみならず、まちづくり・福祉との連携や地域再生との関連を視野に入れたものであることが大きく取り上げられており、是非県民の皆様の御意見をいただきながら、「ともに考え、ともにつくる」取組みを進めていきたいと考えております。

また、近年の地震災害の教訓から、生命・財産を守る建築物の耐震対策は大きな課題となっております。昨年四月よりスタートした木造住宅耐震化促進事業による木造住宅の耐震診断促進の他、十一月七日に改正された耐震改修促進法に基づいた計画的な耐震化の推進や指導の強化など、安全で安心できる建築物を目指す、県民サービスの更なる向上に努めてまいります。また、県有施設は災害時に復旧活動拠点や救急医療施設として機能する必要があり、既存県

有施設の耐震化についても関係部局と連携を図りながら計画的に進めていきたいと考えております。この他、営繕行政については、厳しい財政状況に対応するため、現在約五千二百棟を抱える県有施設ストックについて、従来から実施している共生のまち推進事業等に加え、全庁的な取組みとして、計画的な維持管理等

による既存施設の有効活用（ストックマネジメント）の考え方による取組みを進め、「永く生きる建築」の実現に向け、更なる努力をしております。また、平成十七年二月十六日には、地球温暖化の防止を目指す「京都議定書」が正式に発効され、環境に対する取組みは、ますます重要性が高まっております。県では三月に「福島県循環型社会形成に関する条例」を定めたところであり、県有施設についても、技術革新のより一層の高度化、複雑化に的確に対応しながら、太陽光発電などに代表される新エネルギーの導入、CO2発生量の少ない工法の採用など、建物のライフサイクル（建設、運用、解体）を通じたCO2発生量の抑制、環境負荷低減を図る「環境配慮型県有施設計画・設計指針（仮称）」を平成十八年三月までに策定する予定です。

さらに、誰にでも利用しやすい建物を目指すこと、誰にでも利用しやす

地方分権時代を迎え、今後の住宅・建築・社会資本の整備は、真に地域に必要なものを県民の皆様とともに考え、ともにつくることを念頭に、「安全で安心できる生活環境づくり」、「個性と魅力ある美しいまち（地域）づくり」の実現を目指してまいりますので、皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。



福島県農業総合研究センター(仮称)研究棟

維持管理と解体の指導を行い、県民生活の安全安心の確保に取り組む考えであります。

平成十八年の主な営繕工事を紹介しますと、農業総合研究センター（仮称）や平養護学校（第一期）が平成十八年四月に供用開始を迎え、平養護学校（第二期）や会津学鳳高校の工事が本格化する予定となっております。

平成十八年の主な営繕工事を紹介しますと、農業総合研究センター（仮称）や平養護学校（第一期）が平成十八年四月に供用開始を迎え、平養護学校（第二期）や会津学鳳高校の工事が本格化する予定となっております。

平成十八年の主な営繕工事を紹介しますと、農業総合研究センター（仮称）や平養護学校（第一期）が平成十八年四月に供用開始を迎え、平養護学校（第二期）や会津学鳳高校の工事が本格化する予定となっております。

平成十八年の主な営繕工事を紹介しますと、農業総合研究センター（仮称）や平養護学校（第一期）が平成十八年四月に供用開始を迎え、平養護学校（第二期）や会津学鳳高校の工事が本格化する予定となっております。

平成十八年の主な営繕工事を紹介しますと、農業総合研究センター（仮称）や平養護学校（第一期）が平成十八年四月に供用開始を迎え、平養護学校（第二期）や会津学鳳高校の工事が本格化する予定となっております。

KOTO
安全と快適を求めて。

交通管制システム／道路気象観測システム
交通信号機／道路情報表示システム

小糸工業株式会社

東北支店 TEL.022-225-7501 FAX.022-267-5053

高低圧配電盤・制御盤・監視盤・計装盤・分電盤

ワイム

株式会社山形電機製作所
福島営業所 所長 渡辺良邦

福島市大森字宮ノ前54-5 〒960-1101
TEL (024)546-1321 FAX (024)546-1322
支店・営業所／東京・仙台・札幌・山形・秋田・岩手・福島
場／山形・北海道千歳

配分電盤メーカー

営業品目 屋内外キュービクル・高低圧配電盤
各種自動制御盤・各種分電盤

KATEX
電機事業部
加藤鉄工株式会社 (旧株福電機製作所)

〒960-8001 福島市天神町10-41
TEL 024-534-1528(代) FAX 024-533-8590
本社／〒960-8201 福島市岡島字作田入1-2福島工業団地
TEL 024-534-2111 FAX 024-533-7155

つづく未来につづけるエネルギー

- ◎ 自家発電装置・CVCF発電装置 設計・販売・据付・保守点検・整備
- ◎ コーディネーションシステム
- ◎ 直流電源装置・バッテリー交換
- ◎ 負荷試験・保護継電器・絶縁耐圧試験

株式会社 機電エンジニアリング

〒963-8845 福島県郡山市名倉247番地の1
TEL 024-946-0094 FAX 024-946-1394
http://www.kiden21.com

安全と信頼

日本信号株式会社

■営業品目 ● 交通信号製品 ● 駐車場機器製品
● 入退館システム

■東北支店
〒980-6122 仙台市青葉区中央1丁目3番1号(AERビル)
TEL(022)261-8371(代) FAX(022)225-4627

配電盤 制御システムメーカー

FURUKAWA

古川電気工業株式会社
郡山支店
支店長 小野寺 優

福島県郡山市若葉町11-23 ☎(024)934-0859
FAX(024)934-0861

本社／仙台市宮城野区扇町2-1-10
仙台工場／仙台市宮城野区扇町2-1-10
支店・営業所／仙台・東京・横浜・川崎・盛岡・札幌

若手がディスカッション

県営繕職員との懇談会開く



「一緒に創ろう！未来へつなげる電気設備」をテーマに、当協会は十二月二十二日に、第四回目となる県営繕担当職員との技術研修会を郡山市のビッグパレットふくしまで開催した。

県の営繕担当職員と当協会会員企業の若手技術者が同一のテーブルにつき、公共機関が発注する電気工事を施工していく上で、現在、直面している問題を取り上げ、解決していくことにより、より良い設備を造り上げることを目標とした研修会には、県側から十名、協会側から十五名の若手技術者が参加した。

今回は、個々の問題に対してより多くの意見を出し合って全員で考えようというディスカッション形式を採用し、全体・支部の打ち合わせを計八回行って問題点の整理を行った。

研修会では、まず当協会の三浦光博技術委員長が「この研修会は、若手技術者が自主運営していくことで、コミュニケーション力を高め、日頃感じている疑問や課題について、真冬に見事な花を咲かせる洋蘭を見て興味があるが、なかなか咲いていないの

いって共通認識を持ち、より良い施工につなげていくことをねらいとしている。忌憚のない意見を出していただきたい」とあいさつした。

参加者の自己紹介の後、研修討議・意見交換

に入り、着工前、着工時、施工時、竣工時、完成後という時間軸に沿って、設計思想の明確化や事務手続きの確認、変更の進め方、書類作成、点検の実施等について積極的に意見を交換した。

当初は、専門誌を買って勉強しましたが、なかなかうまくいかず、かなりの数の花をだめにしました。でも、懲りることなく続けていくうちに、うまく咲くようになりました。それからは、どんどん増え続けて、今では置き場所に困っている状態です。

また、種類もアンドロピュームをはじめカトレア、オンシジューム、胡蝶蘭と増え、次々と花が咲くのが楽しみになっています。

特にカトレアの花は、皆さんご存じの通り見事です。よ。人間と違って、面倒を見ればきちんと応えてくれるこれらの花に興味のある方には、ぜひお勧めしたいものです。



昭和二十一年生

高効率、高演色、省エネのセラルクス!!

セラミックメタルハライドランプ CERALUX

70W・150W・250W・400W

岩崎電気株式会社 http://www.iwasaki.co.jp/

郡山営業所/〒963-8046 郡山市町東3丁目103番 TEL.024(961)2292

年頭のごあいさつ

社団法人 福島県建設産業団体連合会

会長 佐藤 勝三

あけましておめでと
うございます。

皆様には、お健やか
にて2006年の新春
を迎えられたこと慶
賀に存じます。

さて、我が国経済は
回復基調にあるとされ
ており、日銀福島支店
では県内金融経済概況
について、企業間ばら
つきを伴いつつも持ち
直しの動きが続いてい
るとの見解を示されて

おります。長い低迷か
ら脱却し、明るい活力
のある年であるよう期
待したいものであり
ます。

ところで、県内建設
産業は、今、様々な諸
問題に直面しておりま
す。慢性化した公共事
業費の減少、景気低迷
による民間設備投資の
減退と建設投資額は年
々減少の一途を辿って
おり、特に公共事業費

においてピーク時の
平成十年度と比較して
平成十七年度は六三・
四%の減少でありま
す。

翻って、県内の社会
資本の整備状況をみま
すと、中央都市と大き
な格差が生じているよ
うに思われます。県民
生活の安全安心のうえ
から、河川や湖沼の水
質環境や生物の生態系
を保護する上で欠くこ

とできない下水道の
整備を始め、生活幹線
道路の改良整備、県土
の均衡ある発展や救急
搬送のための高速交通
網整備が求められてお
り、受益者負担の原則
に基づく道路特定財源
制度の堅持は重要な課
題であります。

又、最近の地震、台
風、集中豪雨等自然災
害の多発化やアスベス
ト、耐震問題を考えま
すと、県民の生命・財
産を守る施設整備と減
災・災害予防的施設設
置等を推進することも
重要であります。

潜在化した社会資本
整備の必要性を関係機
関・団体、地域住民と
一体となって関係要路
にアピールしていくこ
とが益々大事になって
来ております。

一方、建設投資額の
減少により県内建設産
業は疲弊化傾向にあり
ます。過当競争による
採算性を度外視した低
価格落札・ダンピング
等の発生、営業・経営
利益率の低下と経営上
の隘路が山積しており
ます。

建設業界を取り巻く
厳しい環境下にあっ
て、個々の企業が生産
性や付加価値の向上等
構造改善に自助努力す
ることは基本でありま

すが、当建産連といた
しましては、県内建設
産業の健全な振興発展
のため平成十八年は経
営体質強化のための事
業並びに地産地消の理
念に基づき県内の工事
は地元建設産業を柱に
すえ、取り組んで参り
たいと存じます。

因みに、昨年度当建
産連が中心となり設立
いたしましたNPO法
人循環型社会推進セン
ターでは、県営住宅等
(県中地区) 指定管理
者事業を、内閣府から
は全国都市再生モデル
調査事業を、県住宅供
給公社からは蓬萊中心
施設調査を受託し、環

境整備、循環型社会の
推進に取り組んでいる
ところであります。

当建産連は、社会資
本の整備を通じ、就労
の場の提供、地域経済
の伸展に努め、真摯な
経営を行っている地元
中小建設業及び関連業
者の団体として、商工
会議所連合会をはじめ
とする経済団体等と連
携を密にし、関係機関
のご支援を頂きなが
ら、県民生活の安全安
心のため努力して参り
ますので、今年もよろ
しくお願い申しあげま
して年頭所感といたし
ます。

環境整備、循環型社会の
推進に取り組んでいる
ところであります。

当建産連は、社会資
本の整備を通じ、就労
の場の提供、地域経済
の伸展に努め、真摯な
経営を行っている地元
中小建設業及び関連業
者の団体として、商工
会議所連合会をはじめ
とする経済団体等と連
携を密にし、関係機関
のご支援を頂きなが
ら、県民生活の安全安
心のため努力して参り
ますので、今年もよろ
しくお願い申しあげま
して年頭所感といたし
ます。

編集後記

広報委員 相笠 恵一

真冬に見事な花を咲かせる洋蘭を見て興味があるが、なかなか咲いていないの

電気設備の総合メンテナンスは当協会に!

当協会は、自家用電気設備の保安管理業務のほか、変圧器、リレー等の試験や非常用予備発電装置の点検、省エネの調査分析など幅広く行っております。何なりとお気軽にご利用下さい。

財団法人 東北電気保安協会

福島事業本部	福島市置賜町1-29	☎(024)528-9366
福島事業所	福島市泉字南谷地5-6	☎(024)557-2161
郡山事業所	南相馬市原町区上佐佐字原田432-1	☎(0244)22-3568
郡山事業所	郡山市富田町稲川原1	☎(024)932-6054
白河事業所	白河市東三坂山2-47	☎(0248)22-6066
いわき事業所	いわき市好間町上好間字洞42-1	☎(0246)36-1177
若松事業所	会津若松市町北町大字上荒久田字村北147	☎(0242)32-3350
田島事業所	南会津郡田島町大字田島字大坪490-1	☎(0241)62-4847
須賀川事業所	須賀川市大字西川字後田78-5	☎(0248)72-9120

電気技術総合コンサルタント!!

自家用電気施設のことは、お気軽に、ご相談下さい。

社団法人 東北電気管理技術者協会

協会本部	仙台市青葉区花京院二丁目11-11プレジーザンビル	☎(022)261-6015
福島県支部	伊達郡川俣町飯坂字戸内5-3	☎(024)566-3087
福島電気管理センター	安達郡安達町油井字漆原町42	☎(0243)22-2676
郡山電気管理センター	郡山市日和町字日向84-5	☎(024)958-5203
会津電気管理センター	会津若松市河東町谷沢字十文字53	☎(0242)75-2518
相双電気管理センター	南相馬市原町区仲町一丁目157	☎(0244)22-2817
白河電気管理センター	白河市東釜子字枇杷山109-2	☎(0248)34-2205
いわき電気管理センター	いわき市平字堂ノ前18	☎(0246)21-9828

電線・配線器具・照明器具・開閉器・配電機器
電線管及び付属品・電設資材一式卸

戸部電材株式会社

仙台市宮城野区日の出町2丁目2-13
TEL(022)783-8181

■福島営業所	福島市瀬上町字桜町3丁目12-3	☎(024)553-8551代
■郡山営業所	郡山市大槻町下町東52	☎(024)961-6667代
■いわき営業所	いわき市鹿島町御代一田1-1	☎(0246)76-1055代
■原町営業所	南相馬市原町区北原字本屋敷153	☎(0244)23-6106代
■相馬営業所	相馬市榎木字北原104-1	☎(0244)35-6350代

電設資材全般卸

地域と共に歩む

東芝電材マーケティング株式会社

東北電材社

福島支店

福島営業所	TEL(024)553-4165
福島営業所	TEL(024)553-4165
相馬営業所	TEL(0244)36-8901
郡山営業所	TEL(024)934-3065
白河営業所	TEL(0248)21-0360
いわき営業所	TEL(0246)75-0700

技術と信用を誇る
電気、機械の総合メーカー!!

DAIZEN

(販売元) 大然総業株式会社
(製造元) 大全電機株式会社

〒984-0002 仙台市若林区卸町東五丁目7番18号
TEL(022)288-0701代 FAX(022)288-0705